

尿閉を主訴とした陰唇癒着症の1例

奈良社会保険病院泌尿器科 (部長: 大森孝平)

井上 幸治*, 大森 孝平*

奈良社会保険病院産婦人科 (部長: 久間正幸)

久 間 正 幸

A CASE OF LABIAL ADHESIONS WITH URINARY RETENTION

Koji INOUE and Kouhei OHMORI

From the Department of Urology, Nara Health Insurance Hospital

Masayuki KYUMA

From the Department of Gynecology and Obstetrics, Nara Health Insurance Hospital

A 69-year-old woman was admitted to our hospital complaining of urinary retention. On examination, the labia was found to be fused extensively, with a pinhole opening at the midline. The adhesions were separated under spinal anesthesia. One year after operation, there remains no recurrence. Etiological factor in labial adhesions are thought to include a combination of local inflammation and estrogen deficiency. In our case, the patient had hip joint disease. Hip joint disease is shown to influence the formation of adhesions by interfering with perineal hygiene and decreasing sexual activity.

(Acta Urol. Jpn. 42 : 393-395, 1996)

Key words: Labial adhesions, Urinary retention

緒 言

陰唇癒着症は、左右の陰唇が部分的に、あるいは小孔を残して全体的に癒着しているもので、小児においては稀な疾患ではないが、成人での報告は少ない。われわれは、尿閉をきたした陰唇癒着症の1例を経験したので報告する。

症 例

患者: 69歳, 女性

主訴: 尿閉

家族歴: 特記すべきことなし

既往歴: 39歳時子宮筋腫にて単純子宮全摘術。59歳時左股関節症にて左股関節人工骨頭置換術

現病歴: 1993年10月頃より排尿困難, 尿失禁があるも放置していた。排尿困難は増悪し1994年1月9日午後4時頃より尿閉状態となり近医受診。外尿道口が確認できず, 同日夜間当科紹介受診した。

現症: 身長 150 cm, 体重 51 kg, 下腹部および外陰部の膨隆あり。外陰部は左右陰唇が正中で癒着状に癒着し, 癒着線上のほぼ中央にピンホール様小孔があり, よく見るとそこからわずかに尿の溢流が認められた (Fig. 1)。

検査所見: 血液生化学所見は異常を認めなかった。

超音波所見: 膀胱は尿で緊満した状態であり, その後方に低エコー部がみられ, 腔内の尿貯留と考えられた (Fig. 2)。水腎症は認めなかった。

超音波所見より尿閉状態と考えられたが, 陰唇は完全に癒着していたため導尿ができず, 緊急に超音波ガイド下に経皮的膀胱瘻造設を行った。

骨盤部 CT では, 膀胱に入った造影剤が腔へ流入していることが確認できた。

1994年1月12日腰椎麻酔下にて癒着陰唇切開術を施行した。前方は陰核直下まで, 後方は後陰唇交連まで癒着を切開し, 陰唇が外反するように形成縫合し, 膀胱

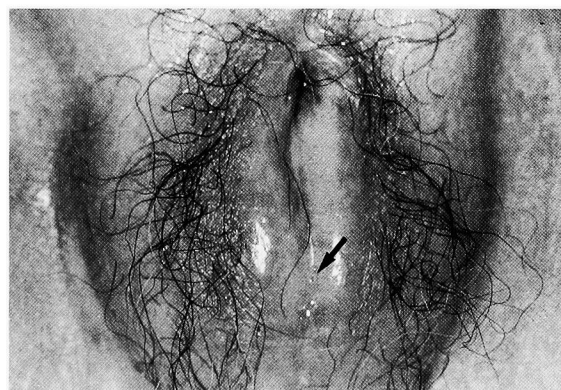


Fig. 1. Local appearance before the surgical repair.

*現: 大阪赤十字病院泌尿器科

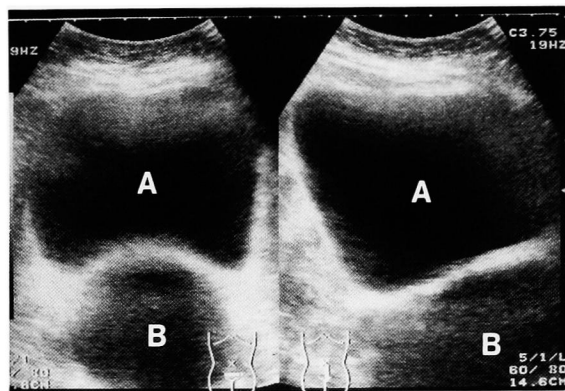


Fig. 2. Ultrasonography reveals a low echoic lesion at the posterior side of the bladder, which shows retention of urine in the vagina. (A: Bladder, B: Vagina)

瘻を抜去，尿道より膀胱内にカテーテルを留置した。術後7日目の膀胱機能検査では異常なく，同日カテーテルを抜去。その後排尿状況は良好であった。

術後の再癒着は現在のところ認めていない。

考 察

陰唇癒着症は，小児においては必ずしも稀ではなく，欧米では14歳以下の女児の1～2%に認められるという報告がある¹⁾。一方，成人においてみられることは稀で，本邦では自験例を含めわずか16例の報告があるのみであり，成人例のほとんどは，閉経後の女性に認められる²⁾。このような好発年齢が示唆しているように，誘因としては，低エストロゲン状態で，脆弱になっている外陰部に，炎症，感染，外傷をきたし，これが引き金となって本症が生じると考えられている³⁾。他の要因として，中村ら⁴⁾は sexless life が本症と密接な関係があるとしている。また Savona-Ventura ら⁵⁾は，股関節症と陰唇癒着症の関連を述べている。股関節症による開脚制限のため陰部の清潔を保てないこと，sexual activity の減少をきたすことが本症に影響を与えていると述べている。本症例も，左股関節症の既往があり，人工骨頭置換術後も開脚困難が認められ，陰唇癒着症の誘因の一つと考えられた。

成人例と小児例の陰唇癒着症の主訴の比較を示す

(Table 1)。成人例では自験例を含めわれわれが調べた本邦16例^{2,4,6-17)}，小児例では1992年に木下ら¹⁸⁾が集計した本邦16例をそれぞれ比較している。成人例の主訴としては排尿困難がほとんどであるが，小児では外陰部の異常を主訴とするものが約半数である。本症例のように尿閉を主訴とした例は自験例を含め3例のみであり，また，腔内への尿の流入が見られた例は過去に1例あるのみで本症例はきわめて稀な症例と考えられた。

陰唇癒着症の治療は，一般的に，小児例ではエストロゲン軟膏の局所への塗布のみで治療可能とされている¹⁹⁾が，成人例では癒着が強固なため手術的に癒着部の鋭的切開を必要とすることが多く，本邦報告例もすべて手術的治療を行っている。術後の再癒着率は14～20%であるといわれており²⁰⁾，エストロゲン軟膏の局所塗布が再癒着の予防に有効とされている^{11,14,20)}。

結 語

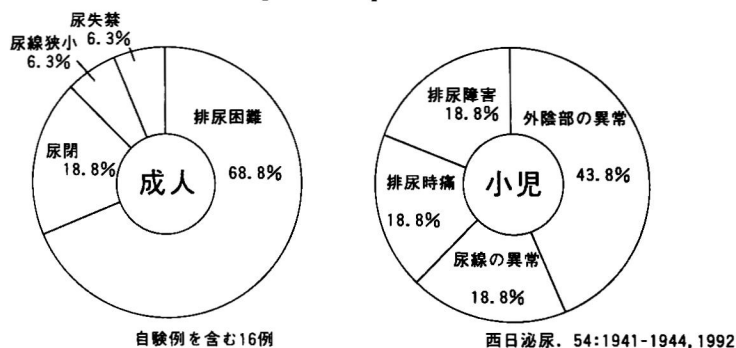
尿閉を主訴とした陰唇癒着症の1例を報告した。本症例は低エストロゲン状態および左股関節症の既往が誘因であると考えられた。

本論文の要旨は第147回日本泌尿器科学会関西地方会において報告した。

文 献

- 1) Ochter J: Clinical phenomena noted by a school physician dealing with healthy children. Clin Pediatr 15: 748-751, 1976
- 2) 本田伊克，引間規夫，藤岡良彰，ほか：小陰唇癒着症の2例。臨泌 36: 887-890, 1982
- 3) 岩崎寛和，宇田川芳男，村井和夫，ほか：陰唇癒着症の治療。産婦の世界 26: 101-104, 1974
- 4) 中村 剛，須賀喜一，松崎 章，ほか：陰唇癒着症の1例。西日泌尿 56: 54-56, 1994
- 5) Savona-ventura C: Labial adhesions in postmenopausal women with hip joint disease. Aust NZ J Obstet Gynaecol 25: 303-304, 1985
- 6) 北村 温，片山 喬，遠藤博志，ほか：陰唇癒合

Table 1. Chief complaints in patients with labial adhesions.



- 症の3例. 日泌尿会誌 **64**: 347-348, 1973
- 7) 広野晴彦: 追加. 日泌尿会誌 **64**: 348, 1973
- 8) 折戸松男, 近沢秀幸: 陰唇癒着症により排尿困難をきたした1例. 日泌尿会誌 **75**: 891, 1984
- 9) 眞田寿彦, 瀬川 襄, 清水 昭: 高齢婦人にみられた陰唇癒着症の1例. 臨泌 **39**: 168-169, 1985
- 10) 藤田良一, 座間秀一, 山口邦雄: 陰唇癒着症の2例. 日泌尿会誌 **78**: 2214, 1987
- 11) 横尾大輔, 中村英樹, 宮本純治, ほか: 陰唇癒着症の2例. 臨泌 **43**: 516-518, 1989
- 12) 山田智子, 清水良明, 許山浩司, ほか: 高齢婦人にみられた小陰唇癒着症の1例. 産婦の実際 **39**: 1787-1789, 1990
- 13) 小藤秀嗣, 宮崎徳義, 平田 弘: 成熟女性にみられた陰唇癒着症の1例. 西日泌尿 **52**: 751-754, 1990
- 14) 河 源, 土井俊邦, 中 祐次, ほか: 閉経前に発生した陰唇癒着症. 臨泌 **46**: 157-158, 1992
- 15) 池井義彦, 大藤哲郎, 蓮井良造, ほか: 高齢女性の陰唇癒着症の1例. 西日泌尿 **54**: 64-66, 1992
- 16) 白井千博, 池田彰良: 高齢婦人に見られた陰唇癒着症の1例. 神奈川医会誌 **19**: 202-204, 1992
- 17) 葉梨秀樹, 黒川公平, 一ノ瀬義雄, ほか: 尿失禁をきたした小陰唇癒着症の1例. 泌尿器外科 **5**: 805-807, 1992
- 18) 木下博之, 山本省一, 曾根淳史, ほか: 小陰唇癒着症の2例. 西日泌尿 **54**: 1941-1944, 1992
- 19) Huffman JW: Disorders of the external genitalia and vagina. *Pediatr Clin North Am* **5**: 35-49, 1958
- 20) Chuong CJ and Hodgkinson CP: Labial adhesions presenting as urinary incontinence in postmenopausal women. *Obstet Gynecol* **64**: 81s-84s, 1984

(Received on September 14, 1995)
(Accepted on January 10, 1996)